

平成29年度

環境活動レポート



対象期間 : 平成29年4月～平成30年3月

発行年月日 : 平成 30年7月31日

Mioテクノロジー株式会社

目 次

1 事業概要 & 認証登録範囲	1
2 環境方針	2
3 実施体制	3
4 環境目標	4
5 環境目標の実績	5
6 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組	6
7 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、 訴訟等の有無	7
8 代表者による全体評価と見直し結果	8

1 事業概要 & 認証登録範囲

1 名称及び代表者名

Mioテクノロジー株式会社
代表取締役 **大和田 有悦**

2 所在地

本社・工場 宮城県気仙沼市松崎上赤田63番地3
松川工場 宮城県気仙沼市松川383番地

3 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 取締役工場長 伊東秀光 TEL : 0226-23-7211
E-mail ito@mio-tec.co.jp
担当者 藤田敦男 TEL : 0226-23-7211
E-mail fujita@mio-tec.co.jp

4 事業活動の内容

医療機器、情報機器、通信機器装置の製造

5 事業規模 平成28年度

資本金 2,016万円
製品出荷額（又は、販売額） 2.5 億円

項目	本社	松川工場
従業員	50名	0名
延べ床面積	1744m ²	522m ²

6 認証登録範囲

本社・工場 宮城県気仙沼市松崎上赤田63番地3
平成28年度 松川工場 宮城県気仙沼市松川383番地を追加予定

7 事業経歴・営業範囲

事業経歴

平成17年 3月 Mioテクノロジー株式会社 創業
平成23年 3月 東日本大震災により工場が壊滅
平成23年10月 気仙沼市松崎に工場移転
平成24年 5月 気仙沼市松川に松川工場新設
平成24年12月 エコアクション21認証取得
平成27年 3月 ISO9001認証取得

営業範囲

岩手県南部、宮城県北部、関東・東海地区

2 環境方針

〈環境理念〉

Mioテクノロジー株式会社は、プリント基板及び電子機器製品の製造工場として、地球環境の保全が重要課題と認識し、活動によって生じる地球環境への負荷を減らすよう行動する事により地球にやさしい企業を目指す。

〈環境保全への行動指針〉

Mioテクノロジー株式会社の社員一人一人は「この美しい海と川、山の緑、そして澄んだ青空を守り続けます」をスローガンに掲げ、次の世代へ引き継いでいく事が基本的責務との認識にたって行動する。

- 1、社内における二酸化炭素・廃棄物排出量の削減、有害物質の削減、節水、グリーン購入に積極的に取り組み継続的な改善と環境汚染の予防に努める。
- 2、国や地方自治体が定める環境関連法規制、並びに当社が同意したその他の要求事項を順守する。
- 3、全員に環境教育等を実施し、環境方針の理解と環境保全に対する意識向上に努める。
- 4、地域の環境保全活動に積極的に参加し、環境保全の維持向上に努める。

改訂日：平成25年4月1日

制定日：平成24年5月1日

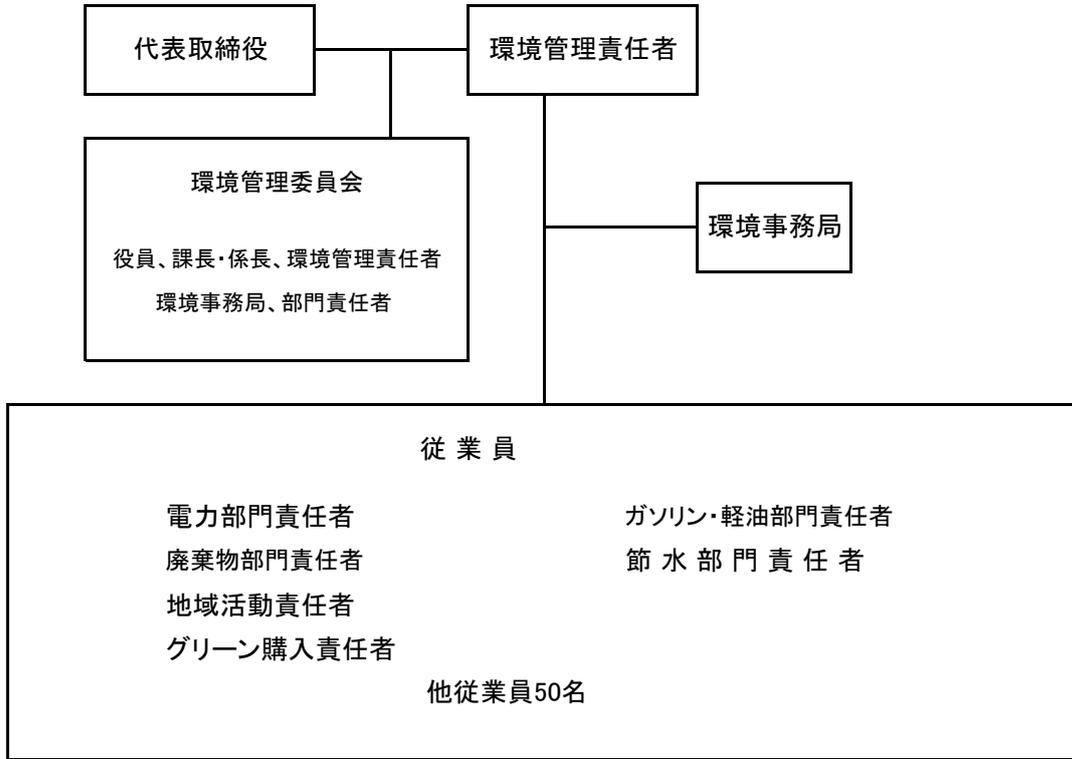
Mioテクノロジー株式会社

代表取締役

大和田 有悦

3 実施体制

(1)組織図



(2)環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 ・環境管理責任者を任命。 ・環境方針策定、目標・活動計画の承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。
環境管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長は代表取締役とし、環境管理責任者が召集する。 ・環境管理責任者の提案を審議し、決定事項を部門責任者は各部門で実施する。 ・内部監査の代りに、計画の進捗状況・ガイドラインへの適合状況を審議し、不適合・不具合がある場合は代表者、環境管理責任者に是正を勧告する。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境活動の取組結果を代表者及び環境管理委員会へ報告。
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付) ・取組データの集計、取りまとめ及び文書記録類の管理。
部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・担当部門について環境経営システムを実施し、維持する。 ・省資源、省エネ、節水等の奨励・実施・確認・是正。 ・従業員に対する教育訓練の実施
全社員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚し、能力向上に努める。 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

4 環境目標

当社では、平成27年度を基準年度として中期環境目標を設定致しました。

項目		基準年度 平成27年度	環境目標		
			平成28年度	平成29年度	平成30年度
二酸化炭素排出量	電力使用量削減	229,426Kwh	222,543Kwh	215,660Kwh	208,778Kwh
		135,591KgCo2	131,523KgCo2	127,455KgCo2	123,388KgCo2
		削減率	3%	6%	9%
	燃料(ガソリン)	13.0km/ℓ以上	13.0km/ℓ以上	13.0km/ℓ以上	13.0km/ℓ以上
	燃料(軽油)	8.0km/ℓ以上	8.0km/ℓ以上	8.0km/ℓ以上	8.0km/ℓ以上
排出廃棄物	産業廃棄物削減	5,796Kg	5,216Kg	5,216Kg	5,216Kg
		削減率	10%	10%	10%
総排水量(水資源投入量)		528m ³	528m ³	528m ³	528m ³
グリーン購入		4品種	4品種	4品種	4品種
製品・サービスに関する取組		37.50%	1.0%	1.0%	1.0%

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：東北電力(平成25年 実排出係数 0.591kg-CO2/kWh)

5 環境目標の実績

項目		平成29年度目標	平成29年度実績	達成率(%)	環境目標の達成状況
二酸化炭素排出量	電力使用量削減	215,660Kwh	264,578Kwh	82%	未達成
		127,455KgCo2	156,366KgCo2		
	燃料(ガソリン)	13km/ℓ	14.6km/ℓ	112%	達成
	燃料(軽油)	8km/ℓ	10.1km/ℓ	126%	達成
出物廃棄物排出	産業廃棄物削減	5,216Kg	5,104Kg	102%	達成
総排水量(節水)		528m ³ /年	467m ³ /年	113%	達成
グリーン購入		4品種	4品種	100%	達成
DIP槽共晶半田廃棄量削減		37.4%	37.2%	101%	達成

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：東北電力(平成25年 実排出係数 0.591kg-CO2/kWh)

主な環境負荷等の実績

項目	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	172,120	145,847	211,786
廃棄物排出量	kg/年	5,796	3,398	5,104
総排水量(水資源投入量)	m ³ /年	485	443	467

6 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容

1. 取組結果の評価

表5 主な環境活動計画の内容と取組結果

項目	環境活動計画	実施状況の評価	評価	
二酸化炭素排出量の抑制	照明	照明消灯	極々稀に個別作業機の照明(拡大鏡)の消し忘れが見られました。	○
		照明機器清掃		○
	冷暖房	設定温度(冷房26~28℃、暖房22℃)で行う。		○
	節電	蛍光灯に個別スイッチを付ける。		○
	車両その他	①車両のアイドリングストップ		問題となる様な運転行為は確認されておりませんので、常にエコを意識した運転をしましょう。
②急発進・急加速はしない。		○		
③一定の速度で運転する。		○		
④タイヤの空気圧の調整する。		○		
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物	①ミスコピーを減らす	色々な物で裏面利用紙が見られますので、継続的に活動されています。	○
		②片面コピーの裏面を利用する。		○
		③使用済の封筒を再利用する。		○
産業廃棄物	①廃棄物の分別・リサイクル業者の検討	○		
節水・排水	用水・排水	①節水の表示を行う。	突発的な変化が出ない様観察していきましょう。	○
		②水道を流しながら使用しない。(洗い物)		○
		③トイレ用水の節約に努める。		○
グリーン購入	コピー用紙の環境ラベル表示製品購入	活動の継続をお願いします。	○	
	トイレトペーパー R100(古紙100%)を購入する。		○	
製品・サービス	DIP槽共晶半田廃棄量削減	①投入量/破棄量の確認と周知(掲示)	仕事量と密接に関係してきますので、経過観察しながら対応願います。	○
		②作業員への教育・・・(年1回)		○
		③作業員との削減の為の協議を行う・・・(年2回)		○
		④酸化防止剤(半田)を使用する。		○

○:評価できる、△:まずまず評価できる、×:評価できない

2. 次年度の取組内容

(1)二酸化炭素排出量の削減

H28年度取組の継続(冷暖房運転時の手順書の運用)

(2)廃棄物の排出削減

H28年度取組の継続

(3)節水(排水対策)

管理項目として対応

(4)不良率低減

品質管理部門で活動

7 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規について遵守状況をチェックしたところ違反はありませんでした。
また、H24年10月～関係当局からの違反等の指摘、住民等からの苦情、訴訟等について、問題が有りませんでした。

8 代表者による全体評価と見直しの結果

見直し項目	評価	改善及び指示
1 環境方針	引き続き継続とする。	環境経営方針として作成すること。
②環境目標	二酸化炭素排出量が目標値を超えた。	二酸化炭素排出量の削減に対する具体的取り組みをすること。また、環境経営方針に沿った環境経営目標を作成すること。
3 環境活動計画及び環境経営システム	引き続き継続とする。	エコアクション21の2017年版に沿っているかの見直しを進めること。
4 その他 (法規制)	環境関連法規制に対する知識不足により「フロン排出抑制法」の簡易点検がされていなかった。	フロン排出抑制法においての不備については、点検表の作成と点検を早急を実施すること。
5 全体評価 会社として環境関連法規制の見直しが必要。また、二酸化炭素排出量が未達成については、設備稼働時間（特に窒素発生装置と空調機）の影響が大きいと感じる。まずは、状況の分析を進めて行くことが今後の改善につながると思う。		

環境活動の状況

不要な照明を消灯する。



蛍光灯に個別スイッチを付ける。



シーリングファンを取り付け
冷房効果を高める。



窓にシートを貼り、断熱効果を高める。



環境朝礼



地域活動

2017年4月22日(土) 環境ボランティア活動(地域清掃) (PM1:00~PM4:30)

